

### 1 概要

いわき市では、ごみの適正な処理や減量・リサイクルを通じて資源の有効活用を図り、市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に基づく循環型社会の形成を目指しています。その一環として、食品ロス削減と3Rの推進を柱とする事業を実施しています。令和7年からは、この事業に「いわき市メルカリShops」と「いわきタバスケ」を加え、循環型社会のさらなる推進を目指します。

### 2 家庭用生ごみ処理機購入費等補助金について

家庭から出る生ごみや落ち葉などの有機物を、土中の微生物の働きによって発酵・分解させ、「たい肥（コンポスト）」に変える容器であるコンポスト容器や密閉型容器、また機械的な動作を使って生ごみの減量化や堆肥化ができる生ごみ処理機の購入費について、以下の通り補助を行っています。

イメージ	家庭用	生ごみ自家処理容器	
	生ごみ処理機	コンポスト容器	密閉型容器
			
補助率	購入価格(税込)の1/2 百円未満切捨		
補助限度額	15,000円	3,000円	
補助基数	1世帯当り1基	1世帯当り1基	1世帯当り2基

### 3 フードドライブについて

フードドライブとは、自宅等で余っている未使用食品を持ち寄り、食品を必要としているフードバンク団体等へ寄附する活動です。

いわき市では、食品ロス削減の取り組みのひとつとして「フードドライブ支援事業」を令和6年3月21日より開始しました。

具体的な支援活動として、食品の回収を行うフードドライブ実施主体（スーパー等）、と保健福祉課所管のいわき市生活困窮者支援官民連携プラットフォーム参加団体との調整を行っており、フードドライブ設置店舗への商品の貸し出しも併せて行っています。

令和7年度現在、いわき市では61店舗でフードドライブを行われており、その内11箇所がいわき市フードドライブ支援事業対象となっています。今後も事業協力店舗（事業所）の募集を随時行うものです。



### 4 いわきタバスケについて

食品ロスとは、本来食べられるにもかかわらず廃棄される食品を指し、令和5年度の発生量は約464万トンと推計されています。その内訳は家庭系が約233万トン、事業系が約231万トンを占めています。このような食品ロスの削減については、「食品ロスの削減の推進に関する法律」に基づき取り組みが進められており、これを受けて、令和7年7月1日から開始したものが「いわきタバスケ」です。

「いわきタバスケ」とは株式会社G-Placeのフードシェアリングサービス「タバスケ」を活用したもので、賞味期限が近いなどの理由で廃棄される可能性のある食品を消費者がお得に購入できる仕組みです。このサービスでは、売り切りたい商品のある食品関連事業者（協力店）とサービス利用者をマッチングさせ、地域内の事業系食品ロス削減に貢献するとともに、いわき市民の環境負荷への意識を高める役割も担います。



### 5 いわき市メルカリShopsについて

令和6年度のいわき市では約10万8千トンのごみが排出され、そのうち約3%を大型ごみが占めている現状を踏まえ、いわき市は令和7年10月にフリーマーケットアプリ「メルカリ」の「メルカリShops」を活用した「いわき市メルカリShops」を開設しました。

このショップでは、「リサイクルプラザクリンピーの家」で行っている「修理再生事業」の一環で回収した、家庭で不用になったものの、まだ使用可能な自転車や木製家具を、修理・再生して販売しております。

以前より行っている「リサイクルプラザクリンピーの家」での抽選販売のみでなく、メルカリの巨大なユーザーベースを活用した情報発信・修理再生品の提供によって、ごみの排出量削減に貢献し、地域内でのより一層のリユース活動の拡大を目指します。

※いわき市メルカリShopsでは商品の配送は行いません。



### 6 市民周知活動について

令和7年度では、生ごみ処理機の制度について説明させていただくほか、段ボールで作成できるコンポストの作り方を解説する出前講座の申し込みを受け、出前講座を5回開催いたしました。

また、循環型ライフスタイル支援事業の取り組みをより多くの方に周知するため、いわき市では令和7年10月にいわきFCホームゲームへの出展を行い、12月にはイオンモールいわき小名浜にて「いわき循環フェス」を開催しました。

事業の周知のみでなく、3Rの推進を目的として、いわき市公式YouTubeチャンネル「iTube」にて、「サステナブルファッションと古着回収」「いわき市メルカリShopsといわきタバスケ」「ごみの分別・リサイクル」の3本の動画を公開しています。